

# 元気はつらつ新聞

発行：元気はつらつプロジェクト委員会 平成 26 年 8 月 1 日発行

布施公民館内 〒696-0401 邑南町布施 496

TEL・FAX 0855-84-0651 IP 050-5207-5600

No.1

紙面の内容

- ・専光寺ライブ
- ・高原小学生との登山
- ・岡本委員長のあいさつ

お知らせ

- ・高野山登山
- ・山陰フィルハーモニー演奏会
- ・盆踊り大会
- ・島根大学ゼミ
- ・定住促進

2014. 6. 14 白築純 & Friends 専光寺ライブ報告

## 0歳から80代までみんなが一つになった「専光寺ライブ」

きっかけは・・・

銭宝地域を元気にしたい！との思いではじめた「元気はつらつプロジェクト」ですが、これまで地域に住んでいる皆さんと一緒に何かをするということが、出来ていませんでした。そこで、地域の皆さんに喜んでもらえるイベントを開催し、一緒に盛り上がり、ここ銭宝地区に住んで良かったと思ってもらえることをしようということで、企画を始めました。

企画や準備、当日の運営は若いもので・・・

ご存知のとおり、数年前まで若者中心に「THE 神楽 BIG 4」を開催していましたが、それがなくなって若いもんが地域を盛り上げることがなくなったばかりか、横のつながりもだんだん薄れかけていました。これではいけないと言うことで有志が集まり、どんなことをしようかと話し合う中、このコンサートの案が出てきました。

コンサートを企画することももちろん、若いもんが楽しみながら一緒に盛り上がり横の絆を深めることもねらいの一つですので、みんなでわいわい言いながらいろいろな意見を出し合いました。お寺での JAZZ ライブという斬新な発想も、この中から出てきたものです。

当日の司会進行は、地元の高校1年生ベア（篠原隆真くんと坂本厚周くん）が担当しました。大勢のお客さんを前にしても、あまり動じることもなく、大物の片鱗を感じさせる名（通）司会でした。

始まるまではハラハラ・ドキドキ・・・

ハラハラ・ドキドキの原因は三つ。

一つ目は、この梅雨のまっただ中に天候が大丈夫かということ。準備の最中は時々曇り心配しましたが、日頃の行いのいいスタッフのおかげで、なんとかもちました。

二つ目は、人が集まってくださるかと言うこと。JAZZ という馴染みがなく、嫌悪されるかと思ひ、「童謡・演歌からポップスまで年齢にかかわらずお楽しみいただけます」という、大変フジーな表現で PR しました。銭宝の皆さんは、好奇心旺盛なせいか、当日は 80 人くらいの来場があり、スタッフも胸をなで下ろしました。

三つ目は、来ていただいた皆さんが、楽しんでくださるかと言うこと。前述のとおり JAZZ というあまり馴染みがないので、皆さんの反応をドキドキしながら見ていましたが、白築さんの楽しい話術・すてきな歌声・安楽節や与作も織り交ぜながら、多ジャンルの音楽を JAZZ 風にアレンジし、いつの間にか子どもから 80 歳を超える方まで、会場が一体となり盛り上がりました。安楽節の場面では、八色石の岸忠徳さんがご自慢の踊りを披露してくださいました。白築さん曰く、踊りが飛び出したのは長いライブ生活でも初めてのことでそうです。それだけ、皆さんが一体になっていたということですよ。

専光寺ライブ なにもかも本当にすてきでした・・・

高台にある専光寺から眺めた八色石の田園風景は格別で、田舎の原風景そのものでした。日暮れとともに辺りが暗くなるとキャンドルの光がともり、優しい光にまつまれてすてきな音楽を聴きました。コンサート終了後、川に目を移すと蛍が飛んでおり、これまたすてきな風景でした。

また、スタッフとして協力してくれた若いもんも、招待した子ども会の子どもたちと一緒に楽しんでむことが出来ました。こちらの買いかぶりかもしれませんが、今回のコンサートはきっと若いもんや子どもたちの心に刻まれたと思いますし、こんな田舎でもみんな協力したらこんなにすてきなことが出来るということを感じてくれたのではないかと思います。

今後の銭宝の取り組みは目が離せませんよ・・・

今回のコンサートで若いもんが協力する土台が出来ました。今回参加できなかった方も巻き込み、今後も楽しいことに取り組んでいきたいと思ひます。

ご存知のとおり、ここ銭宝地域には3つのお寺があります。これらを地域の資源として、楽しいことを企画していきたいと思ひますので、皆さんも楽しみにしててくださいね。



## 高原小の児童と高野山に登りました

6月25日(水)、高原小学校の5、6年生が授業の一環として、地域の方や地域マネージャー、公民館の職員と共に高野山へ登りました。

当日は梅雨の最中にもかかわらず、晴天に恵まれ、登山日和。

登りは公民館の前からのルートからスタート。途中休憩をはさみ、熊の腰掛などの説明を受けながら、頂上へ向かいました。登り約40分の道のりは大変でしたが、眺めは最高でした。頂上では、児童に小さいスケッチブックを渡し、それぞれ絵を描いてもらいました。

下りは山野草の楽園の横に出るルートで下山。北側の下り道は地面がふかふかで、子どもたちは滑るように楽しんで降りていました。子どもたちに描いてもらった画は、裏面でご紹介しします。

